

大正区文学逍遥

～小説・伝記の舞台をゆく～

本郷良章 編

★ 京セラドーム大阪・千代崎 ・大正橋周辺

◎ 尻無川

『浪華老侠 小林佐兵衛伝』
船橋半三郎 大正6年(1917) 刊

『俄 一浪華遊侠伝一』
司馬遼太郎 昭和41年(1966) 講談社

◎ 西道頓堀川

『道頓堀川』
宮本輝 昭和54年(1979) 新潮社

◎ 木津川

上流(端建蔵橋付近)
『泥の河』 昭和52年(1977) 文芸展望 初出

『血脈の火』 流転の海 第三部
宮本輝 平成8年(1996) 新潮社
対岸(土佐稲荷神社)

『堺事件』 (土佐烈士、妙国寺の凄絶)
森鷗外 大正3年(1914) 「新小説」初出
対岸(久保吉一帯) ニッタ欄創業者 伝記

『明治の空 一 至誠の人 新田長次郎 一』
青山淳平 平成21年(2009) 燃焼社
大正橋付近

『豚と薔薇』 (著者渾身の推理小説)
司馬遼太郎 昭和37年(1962) 角川書店

『うどん 一 初恋について』 大正橋付近
武田麟太郎 昭和8(1933) 「新潮」初出

『寄席囃子 一 正岡容寄席随筆集一』
正岡容 平成19年(2007) 河出書房

“吉川英治 寄宿跡”(川沿いの廻船問屋)
野勢海運 『鳴門秘帖』執筆地 大正末期～
昭和初期

大正橋設計士 死の逃避行
『大正橋心中』 悲劇小説
春風郎(しゅんぷうろう) 大正5年(1916) 刊

『大正橋心中』 新聞記事
大阪朝日 大正5年1月18日(火)朝刊

★ 大浪橋 西詰

『走馬灯の夜』
寒川猫持 平成14年(2002) 集英社

★ 上ノ八坂神社

『木津勘助伝』
藤原秀憲 昭和49年(1974) 新和出版

★ 近代紡績工業発祥の地(大阪紡績 跡地)

あまよがたり
『雨夜譚 / 渋澤栄一自叙伝』
渋澤栄一 平成9年(1997) 日本図書センター

『雄気堂々』 (渋澤栄一伝記)
城山三郎 昭和47年(1972) 新潮社

『小説 渋澤栄一』 (全)
上巻 曖々(あいあい)たり
下巻 虹をみていた
津本陽 平成16年(2004) NHK出版

『藤田伝三郎の雄渾なる生涯』 (評伝)
砂川幸雄 平成11年(1999) 草思社

『気張る男』 (松本重太郎伝記)
城山三郎 平成12年(2000) 文藝春秋

『孤山の片影』 (山辺丈夫伝記)
石川安次郎 大正12年(1923) 刊

『女工哀史』 (この名著にも大阪紡績の記述が・・・)
細井和喜蔵 昭和29年(1954) 岩波書店

★ 難波高

『最後の一句』 (裁きに対抗する娘の辛辣な言葉)
森鷗外 大正4年(1915) 「中央公論」初出

『大坂町人学者たちからの伝言』
一 伏屋素狄 一
柳田昭 平成12年(2000) 澤標

『胡蝶の夢』 (医師 松本良順の幕末青春譜)
司馬遼太郎 昭和54年(1979) 新潮社

“島左近 落人伝説”
石田三成の知将、島左近の末裔が居住?

★ 泉尾

『大井伊助翁 一 立志傳一』
米井節次郎 昭和15年(1940) 刊 泉尾高女白百合会

“野口雨情 来校記念”
泉尾北小学校『校歌作詞』昭和9年(1934)

★ 藤永田造船所 跡地

『蘆辺の夢』 (夫人が語る 実伝『細雪』)
谷崎松子 平成10年(1998) 中央公論社

『蕩児余聞』 (谷崎松子前夫の放蕩無残)
三田純市 昭和55年(1980) 光風社

★ 船町 周辺

◎ 櫻セメント 跡地

『不況もまた良し』 (松下幸之助伝記)
津本陽 平成12年(2000) 幻冬社

◎ 大阪飛行場 跡地

『大阪を歩く』 昭和5年(1930)～
直木三十五 6年(1931) 大阪新聞連載

(師である北原白秋を木津川飛行場に迎えて読む)
歌集『朝ころ』
川上小夜子 昭和19年(1944) 刊

◎ 中山製鋼所

『林市蔵先生傳』 民生委員の父
香川亀人 昭和29年(1954) 刊

『こちら葛飾区亀有公園前派出所』
秋本治 工場に惹かれての巻より 平成20年

★ 大正区が舞台のミステリー

『カウント・プラン』 平成8年 文藝春秋
『錆』 平成10年 講談社
『大博打』 平成10年 新潮社
黒川博行

『わが手に拳銃を』 平成4年 講談社
『李歐』 平成11年 講談社
高村薫

★ 木津川の伝承説話

『好色一代女』
『西鶴織留』
井原西鶴

『信長公記』
太田牛一

『信長記』
小瀬甫庵

『義経記』
作者未詳

『土佐日記』
紀貫之

『一寸法師』
住吉大社縁起